

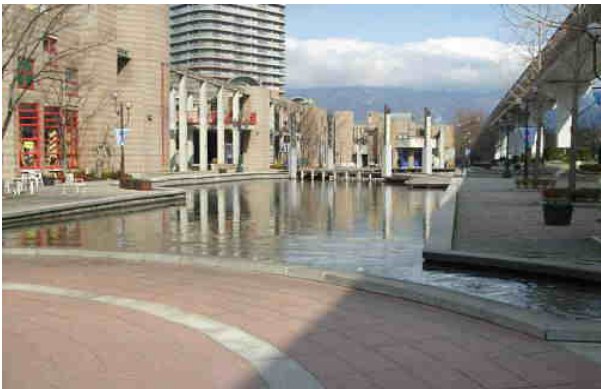
Japan Model Submarine Society の活動及び作品の紹介

1. Japan Model Submarine Society とは？

2002 年夏、神戸の人工島「六甲アイランドシティ」(通称 R I C)に関西在住の R C 潜水艦フリークが集まり、同好会的な存在として個々に活動していたが、ネット環境の普及等により日本で唯一のラジコンサブマリンの正式なクラブとして「神戸サブマリクラブ」が誕生した。

Japan Model Submarine Society (日本模型潜水艦協会, 以下 J M S S)は神戸サブマリクラブの大多数の有志が集まり、R C 潜水艦が大好きな人が集まるクラブに生まれ変わったもの。

R I C には水深わずか 5 0 センチだが、年中透明度の高い人工の川「リバーモール」が出来たおかげで、其処を活動の拠点としていた。若干水深は浅いですが、大切な艦をロストしてしまうことがない訳だから、大変よい環境である。



2. 活動内容

J M S S はサブレガッタ開催を目標に全国展開でき、すべての遠隔操縦潜水可能模型を受け入れ、認知を拡大し、興味を喚起することで技術交流を拡大

していくことを活動方針とする。海外の「サブコミッティー」の日本版が目標である。

当会メンバーの所有するモデルは比較的小型が多いが、潜航性能は抜群で、これから R C 潜水艦を始めたいという方には必見！ R C 潜水艦の歴史は結構古く、そして沢山の方々が様々な方法で試行錯誤を重ねられてきた中で、段々と防水などに対する製作方式が確立してきた。

活動としては毎週日曜日、リバーモール横にて午前 9 時頃から 3 時間ほど定期走行(潜航)会を行っている。また日本ではマイナーな趣味だが、アメリカやカナダでは「R C サブレガッタ」と言う R C 潜水艦モデラーの間では有名なイベントがある。我々の旧クラブもそれを真似て毎年 9 月、北は北海道から南は岡山までの R C サブマリナー 3 0 名弱が R I C にある 2 5 m 競泳プールに集結し、第四回まで「ジャパン・サブマリンレガッタ」が開催されている。

毎年 5 月には横須賀の「しんかい 6500」などの基地である海洋研究開発機構(JAMSTEC)の一般公開日のイベントに合わせて此処でのプールでのイベントにも参加している。

六甲アイランドの 5 月祭りのイベントにも参加しているほか、夏休みに 2 回、神戸ポートピアホテルとタイアップして夏休みの子供向け(小学生対象)の工作教室を開き、牛乳パックで作るモーターライズボート、ペットボトルで作るモーターライズ自動浮沈潜水艦を製作し、プールで楽しんで頂いた。これは神戸新聞にも取り上げられた。これらの活動も、当会が引き続き継続してゆく予定。

公式ホームページ(<http://www.jmss.jp/>)では技術情報としてバラストシステム、浮力の微調整、無線操縦、気密室、水素ガス対策、姿勢制御、軸貫通部の防水シール、船体の製作方法(FRP 成型法)などの解説、具体的な製作記なども掲載しており、メンバーリストや掲示板による情報交換も行うなど、積極的に技術情報の発信を行っている。

3. 日本におけるラジコン潜水艦模型の歴史

R C 装置を組み込んだ潜水艦は、いままで一部の

マニアの手によってトライされているが、艦内の気密性を保つことや潜航・浮上のメカニズムといったところに難しさがあり、また市販キットは見当たらなかった。数名のマニアがいち早くフルスクラッチによる潜水艦を製作し80年代前半に色々なラジコン雑誌等に掲載されていたが、1981年ドイツ映画の普及の名作「U・ボート」が公開され、折りしも世界で初のラジコン潜水艦の市販キットをいち早く開発したのが「ITALYの”I SPA・MODEL”」。82年1月中旬に朝日通商によって細部が国内向けに改良され、発売が開始された。このモデルは1/72のBig Scaleで全長1,250mm、発売価格も98,000円というもの。折りしも前年にドイツ映画不朽の名作「U・ボート」が公開されタイムリーに出現した本キットはマニアの心をくすぐるのに十分な魅力を備えていた。それ以来、数名のマニアによる試行錯誤が繰り返され、その技術が当クラブの会員達に受け継がれ現在に至っている。

3. 何故潜水艦なのか？

まず操縦が複雑で、困難で習熟に時間を要すること。子供の玩具のように簡単にマスターできるものだと直ぐに飽きてしまう。平面上を二次元で動く車や船では、スピードが遅いと操縦が優しく直ぐに飽きてしまう。高速のスピードボートや車は例外。飛行機やヘリコプターのように三次元を動かす物は操縦が難しく、手足のように動かすには修練を要す。野池などでしようものなら一つ間違えば非常に長い製作時間を費やした作品を失ってしまうかもしれない。実際の潜水艦事故や、無人探査機「かいこう」の子機の様になってしまうスリルと緊張感がある。

また同じ三次元の模型でも水密（可動部分、例えばスクリューを回す軸の防水、水圧対策）及び潜航・浮上のメカニズムと言う高い技術的ハードルをクリアすることなど、困難なことに挑戦しそれを可能にしたことによる達成感がある。

日本ではラジコン模型と言うと子供の玩具の延長で、高価なおもちゃというのが一般の方の評価と思われる。しかし海外では特に船舶模型などは文化として認められており、一艇を製作するのに数年を要する事はざらで、親子二代、三代と続くクラブも珍しくない。

また潜水艦という分野もマイナーで、実際の潜水艦自体の歴史が新しいこともあるが、大きな模型メーカーによるキットもなく、ほとんどの方がフルスクラッチにより、船体（ハル）、メカパーツに至る全ての部品を製作している。

ラジコン模型の中でもマイナーな部類であり、正確な人数は解らないが、日本全国で実際に潜航、浮上を可能にする艦は100隻もないと思われる。きっと潜在的ファンは多く、多数の方が挑戦されたと思うが、技術的にクリアしなければならないハードルが高く挫折された方が殆どではないだろうか。

5. 水中ロボフェス 2006 参加作品

水中ロボフェスにはJMS Sから7名、16作品が参加し、また水中撮影やサルベージのためダイバー2人が終日協力した。作品は水中ロボフェスに先立って神戸国際展示場のテクノオーシャンに展示し、整備が行えない状態のまま神戸大学のプールに直行したため、動作不良のものが多く出て必ずしも本領を発揮することができなかったが、RC潜水艦の魅力を多少でも感じ取っていただければ幸いである。

以下、画像のある9作品を紹介する。

578 はましお（日本）



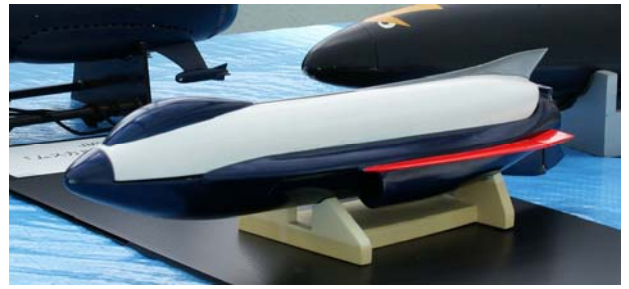
おやしお型（二代目）



ロス級（米国の攻撃型原潜）



アクアレーサー I（オリジナル）



アクラ II（ロシアの攻撃型原潜）



アクアレーサー II（オリジナル）



青の1号 コーバック号（小澤さとる漫画「青の6号」より）



ロベ社製シーウルフ



ムスカII号（同上）

